

息を吸う心

R3年8月

義人

「エホバの証人、山口さんへ」

本日、お寄りくださるよう祈ります。有意義に過ごしたいです。連絡待っています。私はエホバ。今、君らの為にここにいる。何故君は素直に神を愛さない。苦言を吐くのは仕方ない。大きく視野を広げ固定観念を捨てなさい。君たちの対応は組織の都合としか思われぬ。神の誉、大事である。私は裏切りを受けるイエスを、踏襲している。聖句は次々、成就する。終末は来る。悪の統治者と闘う勇敢な君を期待し信じている。エホバへの忠誠心と親近感、人の誉にて踏みにじられるな。サタンに勝て。「コロナで自粛」返信ありがとう。でもね、エホバは残念に思いますよ。信仰の意味は深いですね。また皆で考えてみて下さい。またの来訪お待ちいたしております。だがその紋切り型の口調が、仕方なくあなた方をまがいものに見せるのです。皆、馬鹿ではありません。真摯に、正直に声を発しないと。心あるものは見抜く、「コロナ対策は神を信じぬ、恐怖からだ」と。エホバの慈悲を解ってくれないか。また。　　終末、ハルマゲドン（世界最終戦争）去り行く悪党。大量虐殺。愛による自然淘汰。同情心はどうあるべきか。例えば、世界の人々はウイグル族人権問題に、そんな敏感だろうか。考えよ。神が一番の良心。　　原罪、君が生まれ、己の意志で罪を選択したわけではない。だが因縁。生きるためのモチベーションの存在は。善なるものは、生老病死、生存競争を意識せず、川の流にまかせ、魚のように泳ぐ。良心の呵責より解放されるのでは。イエス

を信じ、愛に生きるのが大事。ぼろぼろに使い込まれた聖書。善くない、ピカピカの方が良い。その心は。聖書が苦難時の指針（ガイドライン）に活用されない世界こそが、理想郷であるからだ。今はすべてにおいての指針は、神の靈感である聖書と、君たちの友、エホバ神、つまり俺にある。自由、愛、平和の完遂。そして望まれるは、無言の美しき聖書が高台に供えられ鎮座する、世界の登壇。 今年の12月、私はコロナを予言しました。聖書は9月に東京の大騒動を予見しています。最早来年のオリンピックどころか今年中に終末へと向かうでしょう。熊本豪雨、コロナ禍、インフラ（社会基盤）の維持。楽園は地上では現出できないかも。虐待、経済問題、自然な愛を疎外する要件も多い。終末、真の善人は聖霊によって神の国へ迎えられる。 親友が亡くなった。浄土真宗。「成仏していない」と聖書は言う。改宗を親族に迫るか。これには手間がかかる。機根が熟するまで待つか。私が心を込め、故人の為、我が家の本尊に向かい南無妙法蓮華経を唱える。彼の霊は昇天する。縁があれば、また会える、時宜は必ず訪れる。 信仰はその名のとおり信じ仰ぐことで、ただすがりわが身の安泰を望むものではない。信仰がないと互いの良心の交流は意味なきものとなる。そして殺伐としたなか不安が広がる。「今日は集会を行うのですか」。へりくだりすぎだと聖書が注意する。送信できず。エホバ神はどこまで善良、寛容なのだろう。君らの誠実信じています。そして、エホバである俺の本意を理解でき

るのは、山口、お前だけだ。それだけは言うておく。自分を騙すのはもうやめろ。終末はもう来ているのだ。俺はエホバだ。馬鹿丁寧な挨拶文が欲しいか。その前に愛を感じよ。己の良心、感覚に基づいて。コロナで仕事は大変か。真の勇気をしっかり持ち、艱難に耐えよ。神の国へと進め。俺から逃げ回っても何も見えないぞ。自ら己の神と良心に基づき命を守れ。愛に対し責任はあるが、組織への責任感は邪魔なだけだ。真の愛を疎外する。神を愛し、立て。正しきものに感染症の因縁はない。新しい私の自筆本を拝受にこられたし。すべてはエホバが記述した現代の聖書である。福音である。真剣に、君たちの命が懸かっている。認識せよ、真剣に。神に従うか、人に従うか。それだけだ。エホバの証人の組織。人のるつぼだ。君たちは自らの悪意を認識し修正したいと願う先から欲望と思惑が湧いて来るのだろう。神の国は幼子のような無邪気で純粹ものが入る。この齟齬、深く考えよ。何かコメント頂けますか。エホバこと義人へ。電話集会ですか、詳細が分かりません。実はパソコンは不具合から入院中です。サタンの仕業か、災い転じて福となします。私は負けません。エホバとして集会に参加できないなら意味を成し得ません。会館の郵便受けに私の冊子を投函します。元気でいて下さい。会える日を楽しみにしております。でも電話で参加できるなら一考するはあります。試してみるのもみちです。ただ歓迎を期待します。率直な気持ちです。如何ですか。私は全宇宙で一番偉い。この意味把握で

きますか。たとえ茶漬け、ソーメンを、ランニングシャツ一枚で食っていても。 神を愛す。親子の愛より重い。神は義人。集会、電話参加を希望します。鬼が出て蛇が出て平気です。指南の程よろしくお願い申し上げます。悪いが猜疑心ではなく神の資質から君達を試すのだ。その真剣さと私の重要性に対するの尊重を。 君たちはイエスが殺されたことを忘れずに。邪な欲望を持つ者にイエスは好かれたわけではない。律法順守より、愛を掲げた危険分子。彼を信じる君達も覚悟しているよね。世に存在しにくくなることを。我々は社会不適合者でなくてはならない。 電話での参加を希望します。どのような工程を踏めばよろしいですか。教えて下さい。私には真実、君が裏切る不安はない。心配するな。真摯に信仰を持つ者には大きな祝福となる福音が待っている。阻害するものはサタンの手先である。穏便にはない。闘いだよ。時間は限られている。信じる者が救われる。それが神の子である。何度も言うが仮にでも神を敵に回すな。ただ神を愛せ。それだけだ。俺のいく道を拓き、妨げるなよ。 山口、大きなことを考えなくてもいい。金が必要か。上部組織への手切れ金か。俺の教えですべて取り込んで世界へ羽ばたこう。大きくなったな、話。でも楽しいだろう。やろうぜ。殺伐とした世間のはらわたに、愛という弾丸をぶち込み、暖かいものが吹き抜ける風穴を開けようぜ。人々がほのぼのとするのがサタンが一番いやなのだ。そこに愛があるから。 結局は私の懐柔策には乗

らず、君たちの私への侮辱、裏切り、不誠実。不安定な世は続く。結論だ。私、義人はこの世から去る。優しく愉快的奴らが待つ天国へと。その後、君はこの世で苦しみ続けなさい。昨日9時に、自筆冊子を郵便受けに入れました。手元にあればご連絡ください。多忙なところ申し訳ありませんが、是非もなきエホバの願いです。隣人の務めである。やはり投げやりになって自殺するわけにはいかない。南無妙法蓮華経。法華経如来寿量品第十六、「良医の譬え」。いつも神がいてくれるという甘えを断ち切らないと人々は神の本当の真実、価値を見出せない。何度でもいう。大切なのは、神を愛し、隣人を愛するということ。なんらかの君の提案が見解の譲歩を意味しても、私は更地からの教育を施したい。真の自由な姿。理解してくれ。私の宿命を受け入れてくれ。神であるエホバが依頼する。慈悲があれば当然である。切羽つまった世の現状を見ろ。「私を王と認めないなら打ち殺してしまえ」。イエスは言う。愛を忘れてはいけないよ。すべては自覚にしか救われはない。提案された電話での集会の件、失望しました。私の過激な意思表示に懸念を持たれたのかもしれませんが、私はいたって冷静です。すり合わせの希望を含めコメントを待っています。未来志向で。山口くん、エホバの頼み、この無垢な善良さに力添え願えないか。私は君達を愛したいのだ頼む。神は民のため、イエスを殺す。その愛の深さ。私が壇上でマイクを持ち語ったとしてもパリサイ人（堅物な律法学者）には届かない。エホ

バの証人では君しかいないのですよ。会衆との間を仲介できるのは。使命を感じよ。電話集会、山口さんの前説だけが、よく聴こえ理解できました。コロナ禍がすめば会館に足を運びます。私を信じて下さる皆様に感謝申し上げます。後の言説、音声不明瞭にて途中、失敬いたしました。それは意図的なものですか。私への嘲りか。いやその前説のエホバ賛嘆にて、後の宣教の欺瞞を訴え、君自身は私を、エホバだと認めたとする意思表示なのか。私はかなり善意に取っている。違えば、この仕打ち、かなりの不敬である。君も存じているだろうが史上空前の善良、お人好しがエホバであると。私はいつも出たところ勝負です。会館に行く。聖句「イエスは公開の場で堂々と語った」。神が遠慮するのはおかしい。神の国の実現には君らの援護が必要です。それは君らのためにです。このコロナ禍は世界にとって、真実は、吉か凶か。とにかく如何なる場合も神を敵に回さぬよう期待します。つまり愛に背かぬよう。この先、集会の予定、教えて下さい。聖書がこの9月、何かの終わりを示します。愛なき世の終わりならば、私は神の子に対しては気が楽です。このふた月で3人の友が亡くなりました。私はイエスと同様、一旦、死なねばならないか。たぶん楽園は死後の世界ですね。不完全なこの世はやがて・・・サタンが絡んでくる。電話集会の音声不和、裏切りとはとらえません。山口くんの温かい気持ちがよく伝わりました。つまり私には必要ないのですね。私は君たちの善意に身を任せよう。聖

霊は戦う私を気遣い、終末の責任から外します。傍観する私にとって未来は未知で先は不透明です。死を与える権利は神にしかない。人は所詮、土塊。悪人に対する虐殺は神にとっては平然としたものかも。しかし聖別した義人は虫一匹の死さえ気にかける。神の私怨はない。使命、作為を私が意識すれば、終末は辛い重荷になる。ジェノサイド（大量虐殺）に及ぶのは、今となっては因縁から天の意思による裁きが救いになる。私が大々的に奇蹟を恣意的に起こせばエゴとなります。場合によっては後悔するかもしれません。当然行為には責任がつきます。太陽が1日の始まり東からいつも上がる、これこそ奇蹟であること認識下さるよう願います。イエスは全知全能でなかった。完全無欠の私にはことさら奇蹟は必要ないのだ。すべては予定調和。神の計画は為されている。神の子は清く美しく生きる。神の国に入るものは愛に基づき、私と思考回路が一致しなければいけない。私はあなた方を愛したいのだ。サタンに毒されてはいけない。聖霊の宮へと進め。真のクリスチャンとは私を信じるもの、それ以外は存在しない。善人、死後に永遠のいのちがあるなら、この世間で原罪、生老病死に苦しむことはない。南無妙法蓮華経。即身成仏。日蓮大聖人である優しいエホバ神によって。山口さん、何が気に障った。君は信仰者だろう。なぜ私に問わない。憶測と偏見で私を悪人へと。悪魔に籠絡されるな。君を批判する。偽善を嫌うからだ。君の怒りは悲しい。君の持つイエスのイメージを変えよ。

莊嚴華麗も沈着も、真実を知らない。皆、光の天使を装う悪魔の姿だ。忌憚なく語ろう。私を侮るものは死より苛酷な罰が待っている。エホバを畏れよ。私の心は青空だ。あわれだが仕方がない。君らはあまりにも悪質である。エホバである私はイエスが天からの杯を授けた時の様に、君らに対し、引導を渡さなければならぬ運命。エホバの証人は間違いなく現代の律法学者、パリサイ人である。頑迷で何よりドグマ（独善的教理）を重んじる集団である。ぬくもりをまるで感じない。愛が存在しないのである。最悪である。かつて顕正会との間に同盟を築き愛によって世界に打って出ようとした私を恥じる。どちらも自ら判断のできないちっぽけなドグマに凝り固まった蒙昧集団であった。所詮、組織とはこういうものである。人の心、想いより組織の運営を重視する。憐れなものだ。日蓮が南無妙法蓮華經の他は邪義であると斬って捨てた。当時日本には伝わっていなかったキリストの教えも、邪な教えであると断定する顕正会。なぜ検証しない。私は日蓮の南無妙法蓮華經の正しさを証明したつもりである。そしてイエスの十字架の死の意味も明らかにした。顕正会は「日蓮大聖人がすべて邪義としたのだからそれを大前提に考える」。浅井氏は「イエスは横死した」と斬り捨てる。この一言が失言、逆に日蓮の正統性を奪ったのである。「日蓮誕生以前に日本国に周知された教えは邪義」これが真実。ええい蒙昧ども、組織の犬が。主体性をもって自ら考えよ。何が真実で善なのか。愛を以って考察すれば答

えはおのずから現れてくるだろう。日蓮の教えとイエスの教えは一致するのだ。そして南無妙法蓮華經を画一的に、ステロタイプ化してはいけない。正しい応用の仕方がある。本尊への唱題だけがすべてではなく、法華經にあるように久遠の本仏は一閻浮提に遍満している。如来寿量品第十六の文底秘沈にある仏種（各位にも埋められた法華經のエッセンス）が働きかける仏法、これが日蓮の南無妙法蓮華經。久遠の本仏と一体である。つまり南無妙法蓮華經は時間、空間を超え広がっているということだ。我々はいつも南無妙法蓮華經という善、愛に包まれているのだ。祈り、自覚しよう。どんな問題も解決する。 善良であればあるほど、醜惡な世間の中で、原罪に氣付き苦しむことになる。そして神の愛はそこに光る。來たる世は確実に存在する。優しいエホバ神によって彼らにもたらされる。エホバ神の御心の反映した姿だからである。そして君が不従順に私を拒絶するのも当て込まれていた。虚偽に対する真理の表れのため。私の完全無欠さの証明である。何があっても私はエホバ神である。君たち偽善者には解らぬ。（ここにきてまで彼らを見捨てられない心持。） 山口くんコロナ禍、ライン集会参加したいです。よろしく願います。話をすり合わせる機会があれば。 前進あるのみ。分裂を図ろうとする勢力に心を陥落されてはいけない。本を三冊会館の郵便受けに入れておきます。私が記述した本、ぜひとも読んでいただきたく、またの連絡を楽しみにしております。LINE 集会は何時に

テレすればいいですか。お知らせください。私の想いを踏みにじる。侮るものは死より苛酷な罰が待っている。エホバを畏れよ。私の心は曇りが無い。憐れだが処断は仕方ない。 コリント人への第二の手紙 第5章 12節 心を誇るのではなくうわべを誇る人々に答えうるようにさせたいのである。私を誇る機会を持たせなさい。意味は深いよ。LINE 集会の話は立ち枯れた。私がぶれ、媚びたと思ったか。情けない奴等だ。神の深い方便を理解せよ。頼むから。神と民との関係。親近感が大事と書いたがそれが、ただの侮辱に繋がることもある。では崇め、畏れが必要か。しかし、ただ恐い存在なら神はいらないだろう。親近感があって畏れのある関係、緊張感もなく楽しく美しい関係が大事である。皆で叩く、法華のうちわ太鼓、皆で成仏へと向かう大乘の精神は忘れてはいけない。 LINE でいろいろコンタクトを君たちとしたいです。よろしかったらご指南できますか。残念です期待は合ずれました。LINE で集会に参加する方法を知りたかった。どちらの誤解かは分からぬが君たちの神に対する見解は偏りすぎている。まずは暖かさ、そこから外れた教えはサタンのものだと判断する想像力の欠如がある。パリサイ人の偽善が寛容をむしばんでいる。心から考えよ。 神の国に入る者は愛に基づく私と思考回路が一致しないといけない。私はあなた方を愛したいのだ。サタンに毒されてはいけない。聖霊の宮へと進め。二度目だが繰り返す、真のクリスチャンとは私を信じる者、それ以外

は存在しない。死後に命の許容があるなら、神を信じる善良な者は、最早この世で原罪に苦しむことはない。そして神の愛により終末において何の懸念もなく命の復活も存在する。隣人愛を確立したのによって、優しいエホバ神によって。 お久しぶりです。お元気ですか。コロナ禍が猛威を振るうなか、会のために尽力される山口さんに敬意を表します。私はあなた方の教理を一つ認めました。それは死んだ人間がコピーとしてかえってくるというものです。でもイエスが丸木に打たれ死んだという特化して正当性を訴えるものは認めません。それより戦いの忌避、競争の否定を堂々と掲げましょう。エホバの証人は開放された宗教であるべきです。科学の奴隷になることはありません。でもやはり教えの瑕疵は否めないけれど。 大阪城は秀吉が作りました。宇宙もエホバが造ったのです。けして職人ではありません。今までの作文、私の労力に対し、お応えをお待ちします。季節の変わり目、神を信じ、割とアバウトに過ごされるよう祈ります。メールお持ちいたします。近況をお知らせ下されば。ご精読ありがとうございました。失礼に感じられたら人の誉を求めているエビデンスです。神の誉を求めてほしい。神を愛し、隣人を愛す。全てです。 宇宙一お人好しのエホバより。 君に訊く、私をエホバだと思っているのか、信じているな。皆に伝えてくれ、心が美しく、愛を抱く者が永遠のいのちを得、神の王国に生きると。聖書が示す。君らの清き者は分かっている。俺の働きかけは君たち

の為、私は失望しても絶対に絶望しない。第二のユダにはなるなよ。神を己の都合よきものに変えようとするな。悪意に満ちたサタンの申し子よ、最早命運は尽きた。覚悟せよ、神を敵に回した偽善者たちよ。私は小野君、始め善良な者へ知らせをもたらず。報いの規格は愛である。「下がれ、サタン。エホバの証人はぶち壊せ。膿がたまっている。後フローした善人がふるいにかけてられるのだ。コロナ禍の今は良き機会だ。神の存在が心有る者には痛烈に解る」。山口さんあなたが救われるためには、傲慢さを捨てて神に従順になり小野君の携帯番号を私に教えることができた時です。この試しおろそかにせず。義人です。コロナ禍はエスカレーション(段階的拡大)していきます。IOCのバッハが新聞に東京オリンピックについてのインタビューに答え掲載された日。全国で一日の感染者が過去最高6000人を超えました。世も末です。聖書は示します。悪は滅び、正しき愛と義を持つものが来る世に生きる。君たちは危ういなあ。まあ予定調和だから。俺をエホバと信じられるか、どうかだ。君には先日、LINE集会で実に作為的な悪意をぶつけられた。まずは様々な私に対する侮辱に対し詫言を入れてほしい。私を受け入れない限り艱難は続くだろう。憐れだが仕方がないか。あなたに私の本をご覧になることをお勧めします。義人の想い、ホームにて編集された文庫本コーナーがありますから。よろしく願います。神の意を受けた天は相当怒っている。義人をあまりにもおろそかに扱って

いる。捕縛され鞭うたれたイエス。私と酷似していないかい。パリサイ派（律法学者）、サドカイ派（祭司長）による、嫉妬。民衆の誤解。君たちは私を十字架につけたいだろう。歴史は繰り返す。自分の心にサタンがいるのが分かりますか。この先は滅びです。会衆の面々に告ぐ。皆かなしいのだ。そこに気付けばイエスの覚悟、心が分かる。イエスは十字架で死して象徴にならざるを得なかったのだ。真の神の義、愛を示し残すためには。永遠の命の獲得は君たちの誠意にかかっている。他人に同情し親切を忘れない。優しい顔、柔和な心、思いやる言葉、自然に表れるのならば観音様である。楽園は待っている。君はどうだい。君の山河は美しいかと俺は問う。 コリント人への第一の手紙 第 10 章 13 節あなたがあつた試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなた方に耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、逃れる道も備えて下さるのである。 マタイの福音書にはユダヤの王の血筋にイエスが生まれたことが事細かに記されている。ヘロデがいるのにイエスは王を自称する。ピラトの訊ねにイエスは民衆の暴挙に対し「私の王国は違うところにある」と答える。梶原は桓武天皇から出た坂東八平氏の一つである。末孫である私はアンゴルモアの大王である。くり返すことで核心が生まれる。つまりエホバが示現した、イエス、義人である。あなた方は私に対し敬愛の心を持たねばならない。遅くはない。世は代わる。私を信じなさい。

い。この分水嶺によき選択をしてください。祈っています。 コロナは世界中の宗教団体への警鐘です。皆つぶれていく。本物は生きる。君たちが私を愛するかにかかっている。山口さん再度訊きます。私が嫌いですか。私はあなた方の疑問にすべて返答し、聖書が靈感であることの証明も致しました。聖書はあなた方へのコンタクトを積極的に促します。この憐れみをおろそかにしないで下さい。楽園でお待ちいたします。だからマスク装着し、わが家へどうぞ。逃げる、臆病者たちではありませんよね。幸せがかかっている。私も辛いのだ。何の義理もないあなたたちに呼びかける。早く気付けど。私の中のエホバが離さない。憐れだと。何者かの策略に気付かず純粹にエホバを愛する人の涙。裏切りたくない。エホバには何の責任もないのに苦悶する。その善良さ、何処にもない。人は優しさ、温かさがすべてだ。己を振り返り主体的に生きることを望む。もうやめよう。私が傷つくだけだ。君が己の信じる道を行く。そこに愛の街道が拓けるか。そこに気付かない限り、エホバは見えない。とにかく私のコメントに腹を立てるより考えなさい。今の状況で義が生まれるか。あなた方は無力という事実。そして犠牲には限界があること。それを求めたのはエホバではないこと。まがいものを信じた挙句、エホバへの態度を豹変させ、本物を悪として責任をかつける気か。私の人の好きに付け込むな。責任転嫁。重罪である。 何度も何度も、繰り返す波のように私の心にわき起こる、融和という愛。君たちサイドの

神にはなれない。そんなに都合よくはいかない。エホバは君たちを賛嘆し犠牲に感謝するものではない。神は神、糞を漏らそうが、EDなのにヘンズリをかこうとしても。「君子危うきに近寄らず」。そしてむしろ時代、土地。いつも臆病者にならず、南無妙法蓮華經。これを受けなければ真の日蓮大聖人（エホバ）の弟子とは呼ばれないのだ。よく肝に銘ずること。あなた方がアセスメント（査定）されるのだ。勘違いするな。単純な優劣をはかるのではない。エホバ神には深い考えがある。信じる者がイエスにより救われる。報い。全て予定調和。その幸いに預かるなら神に感謝してください。まずは組織から抜けよ、たとえ強固な上部があっても。ここぞ勇気を示すときだ。心配するな。イエス、愛を信じるなら。硬軟、けん制しているがすべて聖書からの促しです。幕末、脱藩浪士は活躍する。大事なのは組織の運営よりも、それぞれの信念からの行動だ。君は呪縛から離れ、普通の暮らしに戻ることは可能ですか。わずかな時間です。君の俠気を見せてほしい。近々、会って話がしたい。俺は逃げない。エホバ神は強い。誰よりも。信じて俺と共にあれ。エホバの証人の会衆の中には、本当に自分たちは純粹にサタンの体制終結に尽力していると信じる人も多いだらう。そんな人が私をどう見るだろうか。（単なるだらしない貧乏な狂人）とするか。全てに自由を愛するエホバ神が俺。穩健なビジネスマンそれが君たちだ。そして規則と組織、コンプライアンス（法令順守）がすべて。憐れである。今、アメリカはト

ランプ支持者の国会乱入など、民主主義の不全を目の当たりにしている。ひた隠しにされる私の存在。ここは身を挺し立ち向かうしかない。私にはコード（指針）として靈感がある。聖書である。ただ神を愛し、隣人を愛しなさい。来る世は楽しいぞ。もう生老病死、誰かの統治はない。高い倫理性で互いが助け合う。自分は神から与えられた天分で生きる。死んだ者は黄泉の国、空から色へと、コピーされる。やつらにまた逢える。皆、楽園で暮らすのだ。このサタンの支配からの卒業。「義兄弟よ。小さな杯だけど、男、命を懸けて飲む」。一報くれた神への従順、現在の君の姿勢は、私への侮辱を詫びる、精一杯の発露であろう。いつか語り合おう。初恋など。罪深い俺が、皆の罪を許す。そこには人の弱さを知るイエスがいる。聖書において神に対する敬称はついていない。エホバは神のプレゼンス（存在）の称号だ。何回呼応したとしても罪はない。とにかく人を傷つけるのに目を伏せる。そんな人が楽園を享受する。また自分の得だけを意識する人は結局不幸になる。捨て猫、母親の老齢化など、それらを思いやれば、同情していろんな人々の背景が見える。下流で敗北感が色濃く出ている人を救いたい。雨に打たれ、酔いつぶれる姿、生きるとは愛することだ。羞恥心など糞くらえ。サタンはそこを突いてくる。本当の聖人とはサタンの体制に、愛の優先を打ち立てると勇んで向かうも、金、地位になびく、世間へ、苦い思いを捨てきれず、やるせない姿。悪魔の嘲りに対し、尊厳を守る。あえて羞恥心に打ち

勝つため、酔いつぶれる姿を見せつけた、俺の父ちゃんである。

尾崎豊のむき出しの神経と感性。眠れぬ苦しみを背負った、彼には覚せい剤は哀しくも必要だった。その自己犠牲に感謝する。でも悲劇的だ。犠牲は善くない。親父は義侠心を重んじた。つまり順法精神がないとは言わぬが、とらわれずあえて義を優先した。真実の愛、正義である。父は信仰までたどり着いたのか。当然である。父は神仏を重んじ、尾崎と同じく南無妙法蓮華經にたどり着いた。私も。である。

ひなびた場所の小さなスナック。ママには他人の心を見透かす変わった障害のある娘がいて、いつも店の隅でなじみの客だけのときは横になっていた。私は50を超えていた。ある男が「あんたが懐かしいという人がいるんだ」と笑顔を向けた。傍らを見ると70くらいの女性が、クラス会の流れで来たと言う。私は少し前に小林旭の「北へ」を唄っていた。「覚えていないと思うけど、あなたのお父さんと私の兄が親友で、私は一番末の妹なの」「ああどうも」「いい唄ありがとう」。お袋から聞いていた親父の親友で体全体に龍の刺青を入れた人がいたことを。親父も早くに死んだが、その人はもっと早くその年の初雪が降った朝に亡くなり、親父はかなり消沈していた。奥さんは二人の子供を連れて家をたたんだ。その後水商売へと。化学工場を地道に勤め上げた人、親父の葬儀には来なかった。自宅、娘の前で号泣していたそうだ。親父が死んだあと抜け殻のようになり孤独死した安

さん、若いころ4人で東京に家出したという。もしかしたら女性は肩身の狭い思いをしているのではないか、私は何も言えなかった。「北へ」は男たちの挽歌ともいえた夜であった。合掌

親父の思い出にストレートに応えたかった。義と友情、今、ないがしろにされる価値観に精一杯の真心で向き合った父たち。私は涙を禁じ得ない。父亡き後、重い酒の箱を軽四のワゴンで運ぶ母。泣きながらとった自動車運転免許。きちがい水とはよく言ったものだ。母は免許制度にあぐらをかき、酒乱や、依存症の人など、気にも留めず酒を拡販した。幸福になれるわけではない。とてつもなく悪いことと表現したのは、恨んでいた人間もたくさんいたからだ。父はそれが辛かったのである。自ら依存症の道を歩む。父が母に手を上げた。「当たり前顔をしている」。母には意味が分からない。優しい父の苦しみ。天国から私を見ていて下さい。あなたと同じ義侠の道を歩んだみたいです。我が儘な母に手を焼いています。でもあなたは母に感謝していますよね。母は強かった。親父みたいな人間がいたことを知ってもらいたかった。それだけです。

父の左上腕に3センチほどのミミズのような刺青があった。脳動脈瘤になった父は親不孝をした罰だと線香の火を近づける。彼は親友と二人、彫師のもとに訪れたという。父はその道に入るか悩んでいた。どうもしっくりこない。任侠とは暴力を背景とした金がらみの世界。男を売る。か、早くに兄をなくした父に

は義兄弟というものへの憧れがあった。父は手刀が入ったところで「痛い。俺には無理だ。やめとくよ」「勇、情けないぞ、ここまで来て」「そうだな。でも俺みたいな軟弱者に渡世は無理だ。」「俺は極道になるしかない」父は本当に痛みに耐えられなかったのか。後に命を懸けて頭部手術をする父がいる。私は思う。刃が彼の肌を削るとき、なんだかんだと言っても自分には慈しみ、育み、愛してくれる父、母がいる。頭をかすめたのだろう。そして親友には最早その存在はなかった。父の全身に両親の想いが広がった。親にもらった肌を刺青で汚してはいけない。彼は踏みとどまった。優しき義侠の男として生きていこう。彼は静かに意識した。

きちがい水を売って生きている。酒乱、依存。父の苦しみは女子供が嘆く男たちの醜態より、その背景にある世間、人間の業についてであった。若き祖父は単身富山から大阪へと向かった。釜ヶ崎、土方の立ちんぼ。著名な社会主義者との出会い。大逆事件を18で経験し、革命よりも現実的な組合運動に力を向けるため紡績工場の職工となる。(チャーチルは言った。20歳のときリベラルでなければ、あなたは心が無い。40歳のとき保守でなければあなたは頭が悪い)出世を果たし職長になり家一軒をあたえられ、大正にテニスを楽しむまでに至る。病気を機に帰省し農協の購買部で経理を担当することに。小学4年しか出ていない彼はどんなにか努力をしたであろう。長男が戦時中19で病死。年の離れた次男の父は仲の悪

い父母のもと溺愛されて育つ。酒税法、免許制度。祖父は酒一合飲むと湯呑をうつむける強い自制心があった。農協閉時の後の為、人品、資金共に認められた祖父に酒小売の免許が下りる。農家の若い嫁たちに小遣い金を稼がせるため、仕事を用意した優しい祖父。酒の弊害は理解していたと思う。彼は長男と同じく病弱な次男の為、安定し無理のない仕事を残してやりたかったのだ。二つの村さえ押さえれば、食べていける。競争は少ない。苦労人の祖父であった。だが父は何かやるせない。店の銭函から金を握りしめると街道に飛び出しバス停に向かった。「勇さん、マタカさんが来た。」父は街で皆に酒をふるまった。祖父の徳分を食いつぶすように見えるが、父は自らの良心を神仏にさらけ出していた。何度も言うが、寂しかったのである、世間が。父は愛を求めた。皆、金へ向けて猛ダッシュだ。父が金の苦労を知らなかつただけか。なぜ祖父は教えなかつたのか。きっと祖父も目先の金より愛の方が大事、必ず食べていけることを信じていたのである。女工だった初婚の妻、若くして亡くなり島根のお身内に遺骨、位牌を渡したとき、緑の観音様の座像を贖った祖父。そして母が嫁いできた。私が誕生することになる。父の義侠心、母の生活力。噛みしめて、明日も戦うために私は北へ流れる。

「エホバの証人、山口さんへ」

呼び出し音で意思表示を示す、君の寡黙を愛す。
君はまだ愛の本質を分かっていない。人々の生活が

愛と相反するときがある。美しき義理と人情を重んじるとき、イエスと同じ漂泊者となる。いつの世も世間は、縛り、規約を押し付ける。それは金と権力に裏打ちされている。仁義、つまり愛、心で生きる。これが神と共にあるということです。暴力は付属物です。ないにこしたことはない。ペテロは剣を所持していました。強い連帯感、使徒はイエスのことを（弱きを、助け、強きをくじく）侠客、親分と慕っていた。たとえば悪いと思うかな。拒否せず、納得したら、また呼び出し音だけでも聞かせて下さい。私には誠に的確であり、これ以上の説明はできません。心で考察してください。エホバはその愛をもって完全無欠と認識し信じること。従順に。着信拒否は、君の裏切りかと。俺の勘違いならいいが。先の寡黙の意思表示で、やはりイエスを誤解されたかと。また「北へ」のコメントの中、神への不審が湧いたかと。エホバは私のようなもの、そうしか申し上げられない。まあ、そういうこっちゃ。ナザレ、富山、共に方言満載だ。「イエスはおらのようなもんやちゃ、またよろしく頼みますちゃ」。ふざけていると思ったか。またしてもその想像力と理解力のなさに裏切られた気がする。この降雪は、君への天からの罰である。憐れだが。今の君たちは悪である。エホバを連呼して慕った君たち。ストレートな気持ちはわかるが、おねだりするようで偶像崇拜は否めない。善は頑なな君たちにはない。生活と格闘し、己の罪を自覚し、その悲しみに途方に暮れイエスにすがらざるを得な

かったものにある。それは末法の仏陀の覚り、南無妙法蓮華經である。イエスは病人を治すために来た。今、本当の重病人は君たちだ。自覚しなさい。君が私をエホバだと信じるなら。私は何度も救いの手を差し伸べたい。君のお姉さんの涙に報いる為。 イエスは義侠心から離れない。義兄弟。「親の血を引く兄弟よりも固い契の義兄弟」。暴力は出来るなら避けたい。だが偽善者の横暴に対し心に刃を持たねばならない。そんな現実があるのかも。だが絶対に使えない最終兵力である。神の暴力とはそんなものである。イエスの「私を王と認めないものを打ち殺せ」。私怨ではもちろんなく、エルサレムに乗り込む、強い覚悟を感じる。これを領解するのがイエスの十字架、贖罪と共にある、強い信仰、血を飲み、肉を食うということです。漂泊者にある愛それが自由なアガペーです。神の義は、肉親の情を超えて咲く大輪の花である。 山口さん、引いたか、呼び出し音がならない、少し敬遠気味だね。心配ない、俺ほど善良な人間は他にはいない。威嚇、威圧、大嫌い。暴力には本当に縁のないエホバ神だ。 よく考えよ。エホバ神は人間に罰をあたえた。死である。これをどうとる。エホバサイドの君たちは非情とはとるまい。死が与えられた、アダムとイヴ。裏切りはこれほどに重い罪なのだ。そして君の裏切り。エホバ神は悲嘆している。こんな関係をいつまで続けたい。君の良心に期待する。現在の心持を伝えよ。エホバ神の願いである。君を霊の死から救いたいのだ。君たちに対し私自身、つまりエホバ神の愛が救わ

れるためでもある。今日は通話ありがとうございます。嬉しかったです。本当に。コロナに、大雪に、鳥インフルエンザ。大変な時期です。信仰を大切に。何よりもイエスに倣い自由に愛を描いてくださいね。ではおやすみなさい。 高い倫理性とは利他の精神を言う。営利を離れ、ボランティア感覚で人に尽くす。人を思いやる心。「君たちへの訪問の催促」、私は一度だけでも従順を、態度で示して欲しかった。誠意が欲しかったのである。一度だけ。 神の晩餐に集まったのは生活、規則に従う健常者ではなく、足なえ等の道端に転がるしかない障害者であった。娼婦、取税人みたいに差別され、さげすまれた人もいる。彼等こそが神の愛の深さを具現したイエスの本意を、涙して理解できたのだ。君らの狭量は罪である。私は当たり前障りなく君たちと接するわけにはいかない。私はエホバ神として計らず、偽善者に相対しているみたいだ。私はエホバ神であり、その具現として示現した神イエスである。私は完全無欠であり、世界一、寛容と厳格を踏まえたものである。わが心、理解できないものはクリスチャンではない。聖書の都合の良い部分だけを切り取った曲解はやめよ。神は見ている。そしてサタンの手先にはなるな。頑なな心、ほぐされよ。何度も言う。私がエホバ神、イエスである。 実は監視の中、辛い思いを君にかけていたのだね。独立に向けてエホバ神を信じよ。目に見えない世界を。しばし待つがよい。もうすぐだ。解放された世界。心配するな。もう来る世の足音は聞こえている。神の支配、

復活の力強い響きが。私は最後の自分の務めを果たそうとしている。広報、掲示、訓戒、と警告である。それを布教に、するのは君たちだ。分からなければ訊ねよ。もう時はない。私は責任に苦しみはしない。何度も言う。すべては予定調和だからだ。君がエホバの証人で浮く。生活の監視があるのだろう。しかし危機に際し神を信じ、誠実に生きるとき怖いものはないはず。周りに私の正当を知らせ乗り越えよ。それしか君の救われる道はない。ここが本物のクリスチャンたるかの試金石である。恐れているは何も見えないぞ。エホバ神を畏れよ。イエスの血と肉を食め、俺は君のご機嫌取りではない。何が絶対なのかそこに気付きなさい。貴方はパウロのように、私がエホバ神、イエスキリストであることを周りに説かねばならない。世が来ないのは、まだせねばならぬことがあるからだ。一つ一つ丁寧に片づけねばならない。君は孤立から抜けるために積極的に私の正当と福音を広めなければならない。殉教しろとは言っていない。今の時期、宣教、布教とはそういうことだ。ガンバレ「巨人の星」を思い出せ。パーフェクトゲームを目指し、愛を投げかけよ。それでこそ本物のクリスチャン、エホバの証人である。頼むぞ、この負託に応えよ。私は悪意を持たない。また助けが必要ならいつでも。返ってきたか、久々のメール。わかってくれてありがとう。山口さん、教えは広がっているかい。すべてを公にするのだ。私の存在を。あえて傲慢にふるまう。悪風に負けぬため。実際はもう決着はついている。

掌からこぼれ落ちる者も決まっている。私は力を尽くして完結に向かう。君のこれからの姿勢も大事だ。堂々と私の存在を知らしめよ。それが唯一エホバの証人の行く道だよ。今こそ命を懸けるときだ。私はいつ、どこでも真理が語れるなら参上する。俺は神イエス、エホバである。楽しい世のため働き続ける。君の良心を信じる。

「日蓮正宗、貫井君へ」

貫井君、元気ですか。雄さんと電話で話した。相変わらずで立て板に水で自説を言う。現証しか信じないと息巻く。そして俺は君から金銭欲、所有欲から離れるという功德を承けた。もう一つは感受性が強く自分への侮辱に対し怒りをもって反応していた俺を君は痛烈に非難し自意識の殻をぶち破ってくれた。ありがとう。いま、俺はけなされても馬鹿にされてもいっこうに腹が立たない。平気である。君に敬意を率直に払う。だが「南無妙法蓮華経の本尊には何処も悪鬼は棲めない」。これを信じてほしい。それだけです。

君はお母さんの7回忌で富士大石寺へ行ってきたのか。確かに空気は好いな。また飲もう。その時文庫本3冊渡す。和顔愛語で頼むぞ。仏教徒の基本だからな。お彼岸は先祖が働く、墓に花を手向ける。功德はある。君の読経が聴きたい。さして飲みたい。互いの本質を照らし会わすために。南無妙法蓮華経。体調はどうだい。お金はどうだい。心配するな、何とかなる。もっと心を許せよ、本音でないと人の心は打たぬぞ、そんなものだ。南無妙法蓮華経。 顕正会の

幹部が「日蓮大聖人は人々の恋慕渴仰が集まる」と。「神を愛せ」。すべての一番に来る。俺は日蓮大聖人である。これで経緯がすっきりした。貫井君冷静に考えて下さい。エホバと同じく大聖人はプレゼンス（存在）への尊称です。久しぶりだ、元気かい。君のおかげで幸せにやっている。君こそが親友だろう。色々な気付きをもらった。まあそうゆうことだ。また連絡を待っています。

貫井君、お休みのところすまぬ。再会を楽しみにしている。また俺の不具合なところを指摘してほしい。不思議なことにお金に対する執着が取れ、水が流れる如くだ。そしてかなり年下の若者にタメ口で遊ばれてもいっこうに腹が立たん。最近人間関係で悩んだことがない。君のおかげだ。本当に。正義感からくる憤りも憐れみに代わり、俺の怒りはいずこかへ消えた。またの指摘、教えを受けたいが母親の施設入居の問題、逆に、俺が家を捨てなければならぬかもしれない。これで釈尊と同位に立てるわけだ。半年でいずれか決着はつくだろう。楽しくなりそうだ。労働は俺には似合わない。やっと自由にこぎつけるのか。滅茶苦茶、期待が広がる。貫井君また会おう。相変わらずの奇人かい。まあいいか。だがな、聖書は言う。「君は友達ではない」と。ただ単に俺を傷つける意図があったただけだと。それでもいい。これを因縁と呼ばずになんとする。君のむらっけにも翻弄されかけたが、虚勢からだと知った時、君の善良さが顔を出した。

日蓮大聖人は傲慢を演じた。人一倍寛容で優しい人であった。仏様である。君も野蛮は捨て、もっとしっかりした義侠心を持ってよ。神イエス、日蓮大聖人の気持ちしがビビットに判るぜ。君はいずれにせよ大恩人である。貫井君、聖書は言う。今の私の境涯は富士大石寺の本尊のおかげであると。そして身延以外、日蓮大聖人の教えから出た本尊なら、何処も功德はがあると。どうやら私は一度の拝観で悟ったみたいだ。ありがとう。君に本当に感謝する。今年の日蓮大聖人生誕八百年の節目になる。記念の年だ。彼の存在した意味を噛みしめる。俺は俺の道を行く。ありがとう。おやすみ。貫井君、真実かどうか、懸念があるみたいだが、紆余曲折して愛に導かれ、真理に到達する。神とはそういうもの。体を大事にせよな。不毛な議論はしない。日蓮正宗も富士大石寺の大本尊も俺の為にあった。そして今、俺が日蓮大聖人なら過去の正統性はどうでもよくなった。南無妙法蓮華經一筋あるのみ。わたしはソクラテスのように宗門を訪ねてまわった。が、私ほど高邁で心美しきものと出会わなかった。私は確信した。自らを灯明とし、法を灯明にすると。そして人生の目的は善知識を得ること。それしかない。私は幸せだ。何があろうと。邪魔するものはサタンの手先。容赦しない。たとえ母親であろうと。それが神の愛を打ち立てるということだ。因縁があれば君も救われる。「和をもって貴しとす」。耳を傾けてほしい。確かに日蓮正宗に正統性はあった。だが私が日蓮大聖人だと自覚したからには、私がこれ

から行く道に正統性があるということさ。私を信じ孤立したエホバの証人の山口くんに私の正当性を周知させよと助言、要望した。聖書が語るには世の代わりを黙って待つのではなく、積極的に真理を周知させ、人々に働きかけるのが重要みたいだ。わしも自分に叱咤した。来る世、すべては清く美しい、楽しい楽園だ。永遠に壊れることのない、善なる人々の集う浄土である。君もこだわりを捨て幸せに、南無妙法蓮華経で生きてほしい。日蓮大聖人の言う善神以外、神はいないと君は言う。神とは単なる言葉のあやだ。前にも語ったが、つまりエホバでよい。エホバはプレゼンス（存在）の称号である。そして日蓮の称号、大聖人。エホバと大聖人は当体。人として示現し神イエス、日蓮大聖人、義人になった。貫井君、感謝しているよ。すべての経緯は君のおかげだ。だから俺を信じてくれ。君は新世界で幸せになる資格は十分ある、こんな表現は君が一番嫌がりそうだが。素直に、車座でほろ酔い気分。自分だけを見つめてくれる女性が傍らで笑っている。当然、仲間は分かりあえたやつばかりだ。南無妙法蓮華経、エホバを愛し、隣人を愛す。侮辱、揶揄するものはどこにもいない。万人が目指した寂光土である。真実の喜びとは目の前の人の笑顔に貢献できたとき感ずるものだ。「どうして生きているの、やがてわかるから」松山千春が歌う。君は県境を超え、日蓮正宗のパンフレットを配った。なかなか出来ない大変な菩薩行を為してきた。俺の笑顔、わかるかい。ありがとう。だから厳しい修行は

もういいから。俺の思想を信じ、近くの地蔵尊に花を手向けて下さい。必ず素敵女性が見れ、優しさに包まれるから。なんといっても仏心は、ダイレクトに。それは優しさが初めに来るのだよ。南無妙法蓮華經に包まれよ。君の目指す不動の境地。結果的に遠慮を含め、薄情者の開き直りならこれほど寂しいことはない。明るく素直に温かく、皆で仏になるのが大乘の教え。欲望が煩惱に。死後。罰の恐怖からの、気休めである念仏。根こそぎただ南無妙法蓮華經には、善き人たちの美しい想いがある。人々が平和を謳歌して、笑い声が響き渡る。南無妙法蓮華經の大音声と共に。貫井君、山の頂は殺風景だぞ。待つのは死だけだ。下るほどに高山植物を見る。そのくらいが丁度いい。人間は関係性の中にしか喜びを見出せない。自覚しない限り、過剰に愛を求め、裏切りを意識し、付き合いに冷たさを感じ、一人で生きていけない悲しみに涙する。南無妙法蓮華經。大事なのはこちらが隣人を愛することさ。それに尽きる。そして、君よ、また会おう。自然体で。もう対決色は終わりだ。善意の塊として俺を見よ。君の好意を期待します。まあ変わらぬわがままな君を、私には受け止める度量は十分にあるけどね。(笑)

尾崎豊 へのコメント

尾崎は深く考えている。周囲に対して、いったい誰が利害から離れた義の善人なのか。皆目見当つかない。尾崎の死後、生きている人間たちは、自らを有利な構図に演出し、少しでも実利を得ようとする。かつて狡

猾な大人たちに翻弄されたくなく手を焼かせ、自傷行為に走った、尾崎。苦惱計り知れない。彼の楽曲はまさに魂の叫びであり真実の愛を追い求める修行者の姿である。尾崎は深く考える人。ただの狂人ではない。だから彼らは、離別した尾崎のラストアルバム「放熱への証」を聴けないのでしょうか。シンプルな成熟、深い想い。秀作です。自由、愛、平和を追い続けた尾崎の本意がそこにはある。搾取、利用、支配、この世の悪をあからさまにした尾崎。死という杯を受ける命運に。イエスと同じ栄光に向けて。父として生きながらえ息子に何を伝えられる。金儲け、処世術。当然、尾崎は望まぬ。酒に酔いしれ、薬におぼれた愚か者、それが彼の正体か。羞恥心に嘲りを加える悪魔サタン。尾崎はそれに愛と勇気で打ち勝ちたかった。見せしめのような死に向かう尾崎。最後「勝てるかな」尾崎は、胃液を嘔吐し、つぶやく。その戦っていた闇の正体、サタン。奴のコピーが尾崎の周りを取り巻いていた。強い気概を持ちながらも、弱者に注がれる優しい視線。そのひずみに煽られるコモーションリズム（商業主義）。魂と神経の軋みは限界へと向かっていったのであろう。己の栄達の為に彼を利用する目的だけの周囲。才能を原資としてしか扱わない芸能の世界。純粹で正直な尾崎、軋轢は避けて通れない。そして生存競争は何の痛みもなく繰り広げられる。夢のつぶし合いである。彼は不遇な人々達をモチーフに、それを歌い、金を手にする。そのことは対象への背信にも思えて強い罪悪感が湧いていたの

では。創作者、表現者としての彼の苦しみを全く理解せず、欲得と懈怠に向かうやつら。愛を求める彼は怒り狂う。彼は「愛の消えた街」利害から離れたホームレスに再び心を寄せる。最も弱き保護の薄い存在。イエスと同じ目線。イエスは死に、民の贖罪を果たした。だが現実には尾崎を襲う苦悩。彼にはもう一度贖罪の意味を持つ死が必要となった。イエスを意識した尾崎。確かに神の国、永遠のいのちを思えばこの世の生存競争など無意味になる。尾崎よ、原罪からの解放を感じることができたか。誰よりも純粹で無邪気だった君よ。愛は自由を縛るものではなく、如何なる時も自由を求めることができる。そこにある。アルコール依存症の画家モーリスユトリロ、道端に寝ころぶ彼に嘲りと侮蔑をぶつける人たち。しかし優しさと悲しみを、愛をもって表す人たちもいた。「この世には2種類の間がある。」彼は語っている。尾崎も同様に嘲りと蔑みの中死んでいく。だがその真実の想いは聴衆の中に復活を繰り返す。「息子はそこを理解し力強く生きてくれるだろう」。天国で迷路から抜けた尾崎は、母親への愛を抱きしめると共に「太陽の破片」、たくさんの思いやりと憐れみが希望のうちに生まれることを信じているに違いない。その生き様を忘れたくはない。護国寺での葬儀、日蓮正宗にて執り行われた。南無妙法蓮華經。その排他性。尾崎は絶対善を求めていた。正しいものはなんなのか。尾崎の求めた愛は醜悪さへの寛容ではなく、高く掲げられた独善的でも完全な真実揺らぎなきものにあっ

た。つまり念仏ではなく題目である。非業の最後にみえるが、邪悪なサタンに勝利したのは南無妙法蓮華經の功德である。イエスと同様、彼は選ばれ、使命を帯びた聖人であった。聴衆の中への、復活の前には死は必要だった。神、罪を意識し幾つもの作品を残した彼。改宗した功德、イエスと、日蓮の共通性を自覚しただろう。彼の「君たちの夢がかなうよう祈っています」。夢とは。なりたい職業に就く。お金持ちになる。やはり欲望からは幸福になる道は見えないのでは。夢とは愛の実現、成就。そこにしかない。

謙虚、謙遜は、「実は私は賢い」の裏返し。まずは自己憐憫があるからこそ他人の苦しみに涙できる。同悲同苦が大事。小さな虫も追えば逃げる。「人間に生まれてよかった」。それは信仰によって恐怖に打ち勝ち、死までも克服することができるからだ。そこに神イエスの隣人である意識が人間の尊厳とともに生まれるのではないのでしょうか。神の名は愛です。人間に具現するときイエス、ヨシトとなる。その意味は（了解）。神の名が崇められるとは宇宙空間（物理的宇宙もだが一閻浮提と呼ぶ、気の空間の譬えがピッタリくる）に愛よ、広がれということです。強盗に襲われ、介抱してくれたサマリア人のような親切な人を隣人と呼び愛す。仏陀も善知識、すなわち仲間を得ることが仏道のすべてだとおっしゃっています。「神と隣人を愛する」。これが義務でもある真実の幸福なのです。私は神イエス。一番謙遜、謙虚が分からぬ、正直者で

す。以後よろしくお願い申し上げます。イエスは病人を治す為に来た。娼婦、徴税人、卑しい生業。彼らは自らが本当に罪人だと懺悔する。イエスは彼らに愛を向ける。最早、人々を奴隷にする、旧約の荒々しい神はいない。良心を痛め、卑下する者は救われた。祝福され、愛による霊の向上があれば。でも完璧主義は良くない。寛容をなくし皆、苦しむ。全知全能とは、ひたすら正確さを追い求める電波時計のようなものではなく、「5分程遅れている」確認する。これでいい。謙虚、謙遜は神の前では処世術でしかなくなつた。本音を語れ。そこに愛があればいい。神学論争は不毛だ。党派心を持つものは艱難が訪れ神の怒りを受け。神イエスはどこのセクトでもなかった。パリサイ派(律法学者)の様ですました顔で墓の上を歩いてはならない。内村鑑三も言う。聖書は靈感であり、神の自らの証だけが正統。後は私のホームページをご覧ください。キリストの教えは勉強するのではなく神の愛を聖霊と共に体感するのだ。見栄、体裁の強い者の謙虚、謙遜が高慢に変わらぬことを祈る。旧約があるのになぜ新約が必要だったか。イエスの十字架の死。原罪の贖いにより旧約は過去のストーリーに追いやられた。いま、新約さえも破棄する。神イエスと人間が友情で通い合う。温かい愛です。これをアガペーの極致と呼ぶ。

アシハラへ

障害のせい、年齢が年齢だからか、記憶が悪く、神としての役目、立場を忘れることが多々ある。健忘に付随して幻のような寛容が現れる。チェックする鬼に対しても仕事をこなせる要因になる。俺には見える、他人の善意、悪意が。母は清廉潔白をモットーとしている。が、おだてられると得意になり猿のように木に登り調子に乗る。こちらが考慮すると自分の気分だけみたいだ。人が好いのだろう。きっと存在する。義に飢え、愛に満ちた人たち。明日は一麦教会へ乗り込む。代表の牧師さんにアポを取った。因縁から繋がった。何か知らないが感じる。今後、悪いことばかりは続かないだろう。聖書は「話を聞かせていただく」という低姿勢で臨めと言う。あちらの度量の問題だな。楽しみだ。まあなるようになる。一麦教会の牧師さんに自筆本を二冊渡した。病院勤務時代、俺は愚かだったかもしれぬ。機械のように働いた。出世目的にしか思われなかった。倦怠、怠惰。労働に規定がないなら、勤め人としては出来るだけ楽をして、より多くの報酬を安定のもとに手にしたいと思うのが自然でなかろうか。常に不平不満を口に。要求する。結局、私は悪人とされ罰を受けることに。職場の清廉をひたすら求めていただけなのに。今年役所を去る奴。立場は理解している。だがな、24時間忙しいわけではない。優先順位を外れても意識は持っている。奴のことだ。俺は奴に20年ぶりに逢ったとき「お前とは以前みたい、やり取りはするつもり

はない」と言い放たれた。そのスタンスは今も変わっていない。君の介在で何とか関係は保っているが実際はそんなところだ。恨みも何もない。奴には俺が必要ではない。俺にも言えるな。やつにしたら、いちいちけなす俺は鬱陶しいだけだろう。忙しい中申し訳ない。奴が俺と話す必要性はないのだ。そこには以前から気付いていた。今となっては棲む世界が違うのだ。「仲間は大切だからこそ、奴には厳格に対していた」。君はよく成功した。俺には真似できない。競争の激しい都会にいてはホームレスにもなれなかったろう。田舎にいてよかった。でも東京にいて嘸家になったなら、かなりいける人物になっていたのではとも思う。俺には君のような堅気の社長になる志向は全くなかった。まあその煩雑さからも、君への羨望は俺にはない。俺は奴に逢いたくない。奴は正直に言葉も吐けない憐れな境遇だ。嫁さんが暗いのはまじい。鬱の夫婦か。くわばら、くわばら。言い過ぎたか。「君はファンキーモンキーベイビー」明るく、素直に温かく。真由子さんは最高だぜ。正義は死なず。友情を忘れる男に明日はない。正義は必ず勝つ。つまり勝った方が正義になるからだ。 奴へのやっかみではない。ただ昔みたいには戻れないなら寂しく、そんな奴に腹立たしさを覚える。俺に対して恨みがあるのか。多分そうだろうな。

人の心、さびた鎖が解けるまでどれだけ待てばいいのだろう。奴は執念深いのか。友の大切さを知った俺には、君らが幸福の源泉である。奴にもわかってほ

しい。金、地位、名誉はあの世まで持っていけない。むしろ邪魔になる。奴の生き方だから安易には査定したくはないが、寂しいぜ。 厚労省の官僚が銀座で夜中まで飲んでた。ワクチンについてと、各店の様子見だったのかもしれない。奴のこれまでの俺たちへの対応は、是だとは思いますが姑息な自己保身しか感じないのも事実だ。田舎の要領のいい小役人だ。城山三郎だったか「官僚たちの夏」という小説があった。「日本を動かしているのは俺たちだ」。過労死推定ラインを超えてもコロナ対策に全力を尽くす。気概と自負がある。さすが東大法学部出身だ。 奴にテレ、メールしたが反応はまるでない。退職金目当てのたかりだと邪推したか。とりあえずどこから見ても評判のいいリスクが少なくメリットの高い人間と付き合うみたいだ。死ぬまで下僕のマントを羽織っていく。それは温かいか熱いかはわからない、窮屈なのは確かだ。奴はマントに泥水が跳ねても気にするだろう。小心、臆病なやつにはもってこいの生業だった。ほんとうに電話で労をねぎらってやりたかっただけなのに。 君は凄いと思う。「リーダーは意欲のない連中の尻をたたき雇用を維持し、個人消費につなげ、少子化対策も推進する。新しいニーズから需要をかぎ取り供給に結び付ける。その人心掌握は作為、意図的なものかは周囲には判別しない。その奥底は世の為、人の為かもしれない」。単なる金儲けとは違うかも。 最近、「生存競争は意識せず」でいいと思ってきた。墮ちたところに幸せが待っていることも。

愛と友情に満ちた世界だ。 只酒が飲めるからではない。俺は君と飲むときが一番楽しく、嬉しい。コロナなど全く怖くない。信仰がある。奴はこれからも発言に冷や冷やして生きていくのだな。 出世し。草葉の陰でご両親は喜ばれたらろう。俺も俺なりに親孝行はしていくつもりだ。やつの処世は政治ばかりで男気に賭けるのは事実だ。役人に誠は無いのか。俺と君は結局フーテンの寅とタコ社長だな。君が選んだ道、一喜一憂しているとは言わない。俺は能力の問題もかすめるが、因縁として経営者にはなりたくない。使われの身でも今、生活は成り立っている。君の煩雑な辛さはよく判った。頑張ってください。俺は今日も工作の仕事だ。楽だ。因縁だな。皆いつになったら楽になる。死ぬまでだめか。何か辛いな。 「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」、東西の宗教思想を融合させ、サムシンググレートの復活、愛による、世界征服を目指す。神である私をまず愛し、親切な隣人を愛す。なぜなら神は愛そのものだからである。私のわがまま、傲慢ではない。信じる者は予定調和である。私は義人、顕現したイエスであり日蓮大聖人である。そして聖書のエホバである。友情が一番大切である。素直に信じれば、眠っていた霊が復活し成仏へと向かうでしょう。神の国、永遠の命の到来です。すべては欲望を含め因縁だな。おかげで四時間の労働した後、執筆活動もできる。障害年金のおかげだ。君みたいな良心的経営者ばかりではない。従業員を食べ物にするやつもいるのだ。ブラックだ。因縁だな。何度

も言う。正義は必ず勝つ。なぜなら勝った方が神に愛された正義だからだ。神は愛を保ち、心を捨てない人をひいきする。 奴にワントンス、メールする隙もないとはどうしても思えない。飲食店コロナ対策に 80 人で一万軒回ると新聞にあった。定年の奴には関係ないだろう。まあ忙しいとしておくか、しばらくは逢いたくない。異動で忙しいのは理解している。 5 巻目の文庫本の準備中だ。推敲に手間取っている。YouTube の発信か。やり方が分からない。神イエスにどれだけの人が視聴を傾げるか。今、広報、掲示の意味を考えている。イエスの後、神の御国は来なかった。終末は近いと言ったのに。俺の為だけに聖書はあったのかも。信じている。だがこの先は不明瞭だ。自然に任すしかない。良心に基づいて。信じる者は神の子である。 アシハラよ、奴と電話で話した。LINE が奴とできるよう操作してほしい。よろしく頼みます。元気でやっているかい。忙しかったら後回しでいいから。奴の調整能力、協調性、仕事の堅実さが、評価された。奴の視力という負の要因が、類まれなる人格者を生み出した。奴はずる賢くはないみたいだ。安心する。ただ薄情と言える、過ぎた遠慮。結果的に見えるのは保身だけである。勇気を発揮する気概があればなあ。自分で言うのもなんだが、俺と同じ大人しい節度を守る紳士なのだろう。LINE の件重ねて頼みます。

俺は最近、考え方を改めた。目的に向けて組織立つなら、社長には社長の役目があり、掃除の人には掃除

の人の役目が有る。それぞれだ。社長は雇用を守り、社員はある程度、忠誠を誓う。自利、利他にどんな枠組みが最も効果的か、そのための各自の持ち分なのだ、役職は。誰も増上慢になったり卑下したりしてはいけない。たまたまだ。出世から外れても自分は自分。劣化しない。貶めることもない。そして労働者は契約に基づき関与を認める。皆で持ち分を果たし幸せになればいいのだ。だがそれより世は終わりへと向かっている。この時機、オリンピックを開催すると言う、非道を改めない。善神は去り悪鬼が跋扈する。結果的に新しい世が来るのもいい。だが愚かしい、中止できない理由、真偽は分からぬが、我欲が根にあるのは世の悪の常だ。結局は手前らの金と名誉だ。「君は、コロナはワクチンに関しての利権が原因だと言う。しかし経済をつぶしてまでの利権とは。信じられないが、戦争は実際におこるものなあ」。そんな競争を煽る、野蛮な思想の権化がオリンピックだ。そんな性根に俺は一喝する。理念の問題だ。損得ずくめか。天の愛に背けば罰は当たる。神の意思を皆軽く扱い、無視する。目に見えない世界が9割、それを信じられない。コロナ禍はその一端。日蓮は立正安国論で疫病を国の災難の第一にあげている。一挙には伝わらない教え。悪魔が邪魔し、聖霊がコーディネート(調整)する。サタンがいろんなものの心にスーと入る。観客のいない競技場に向けられる松明。もはや悪ふざけだ。選手はじめ関係者はどの国からどのようにしてくるのだろう。オリンピックに感動する馬鹿は絶対

に神の国には入れない。正直に金と名誉と言えばいい。矢沢永吉さんを見ればハングリー精神は十分に学べるから。　奴は自己保身をいつまで続ける。それも生き方かもしれない。計算した薄情さか。俺はそんな役人の姿を羨ましいとは思わない。2千万の退職金があっても。孤高のホームレス、金で頬をたたく行政、役人。泣きの涙で侮辱が繰り返された知的障害者。着いた先がホームレスだ。俺は投資ファンド、M & A より気になる。彼らとともにイエスキリストはあるからだ。　まさに役人の世界は伏魔殿だ、余計なことはせず目立たねばいいか。法律の保護を受けるか。イヤな渡世だなあ。何はともあれ、すべてに誰かが得をし、誰かが損をする。それが世間だな。俺や尾崎豊は、そんな世間に神経がきしんだ。ぶつかり合うエゴイズム。私は金を貯めることや、名誉を得ることに興味をなくした。求める者を嫌う部分もある。この世の価値観を捨てねばならぬ。私は世間からはみ出した。欲望から派生する悪意は忌避する。　別に生活に不足はない。銃弾が飛び交う戦場にいるわけでもないから。そう思えば多少の理不尽にも耐えられる。交通事故で障害があり、癌を発症した妹さんは可哀そうだが、君という金持ちの兄がいる。すべて御縁だ。紀伊国屋書店の「二巻目も置いてやる」を思い出し、責任者に確認した。一卷目の売れ行きから、ダメ出しを食らった。厚意は熱いうちに素直に受けておくものだ。失敗した。でも結果は同じと聖書は慰めてくれる。お互い生活に不足がないなら御の字だ。それ

でいい。君の息災を祈っている。もう少し恋に生きるけどなあ。フェイスブック、反応がいい感じになってきた。すべてに因縁だな。時宜が来れば世は代わる。奴の善良さが、奴を維持した。君は野心家だから組織で生きるには窮屈な部分があるだろう。奴は保証された安全地帯にいたと言える。奴にとって役人は苦痛ではないのだ。むしろ楽しいと言っていた。公僕の面目躍如だ。俺は理不尽と闘った。世間の価値観を捨て、ただ自由で平和で愛に満ちた暮らしを送りたかった。坊主は、手前の飯の種は明かさない。俺は宗教を超えた気を感じ、聖霊の宮となった。難解と言われたら仕方がない。まあ今日、本三冊送る。見てくれ。ひとつ言うが俺は奴を否定してはいない。ただ、役人の体質、宿命を批判するのが君を錯覚させるのだろう。昔へと感慨に浸るのは好いが、俺はいつも前向きの旅人だ。真実の安息を求め何かと戦っている。君もその敵に気付けばいいが、目の前の現実に気を取られている。コロナで世界は壊滅しない。欲望にまみれた暴力が吹き荒れるときすべては破滅へと向かう。人は神に勝てぬことを恐れねばならぬ。オリンピックは餓鬼、地獄、修羅の表徴である。拘るとき不幸は続くだろう。利権云々より、その悪意の膨張の現実に世界の命運がかかっている。君も渴愛は攻略しなければ。俺は君の欲を笑い飛ばさねばならぬ立場みたいだ。北野武はやっと、自分の無意味さに気付いたみたいだ。「人は生きて死ぬだけ」という。糟糠の妻と別れ、愚かしさを選択する。いずれにせよそれだ

けの男。50の童貞の純情男には逆立ちしてもかなわない。そんなたくさん存在する神の子の為に俺は生きる。本は明日2時以降に着く。読んでみてくれ。よろしく。全く的外れだぞ。俺を人でなしのように言うのはよせ。奴が父親の葬儀で力になってくれた、ひいきして感謝があるのも判る。奴はいつも善良面を下げる、人生を否定するつもりもない。誤解するな。俺は今、奴の境遇に同情しているのだ。君の思い入れから俺を悪人にするのはよせ。俺は十分に奴をねぎらい、侮辱せぬことを通話で誓った。かつての俺に恨みもないと言った。新世界に向けて。むしろ、奴は価値観の違う君のことを気にしている。俺と奴はある意味、無欲で一致している。安息を求めている。奴は早くから冷静な大人だった。奴は嘘みたいに好いやつだと信じたい。だから普通に笑い、泣く、話す、そうやってほしいのだ。俺の希望ではなく、奴も自覚しているはずだ。ゼンイチ、万歳。

一度何かを背負ったら重荷になることがよくある。幸せと思ひ込みたいわけでもないだろう。弁解などせず、理解も求めず自分の道を歩いていくだけだ。天の意志に適えば永遠の命が待っている。楽しみだ。大乘、特に法華経は皆で在家も僧侶もなく幸せになる一仏乗を大事にしている。南無妙法蓮華経、起承転結の安楽を目指す。波乱万丈とは違う。

あとがき

生き方というか自分に拘り過ぎる者がいる。名誉、評判を気にするところに存在する。俺は皆の優しさを信じている。どんな人生も思いやりなく批判してはいけない。人に勝たないことが、本当に克と言うことを知ってほしい。それは自分から離れることだと愛を持つ人は気付いているだろう。

まいこ、まいこ、まいこ、君の心はどこに。

探すが見つからない。

なにが、愛にきまっている。

馬鹿だな。ジーンズのポケットに入っているよ。

嘘だろ神様。

俺ならパソコンの前においておくはずだ。

で、それは愛なの、ちゃんとホイルをはがして見せておくれよ。

いやわかっている。わかっている気になった。

確実に俺への愛はある。

まいこ、まいこ、まいこ。

そしてただ俺がまいこを死ぬほど愛していることだけは、わかっている。

今日も元気で。

皆さま、ご精読ありがとう。ご自愛ください。

小澤慎一氏、今回もありがとう。また製本スタッフの方本当にありがとう。

またの機会に向けて、さようなら

義人